

ほたるの里だより



八千代市ほたるの里づくり実行委員会

第12号 2006年1月

ご協力ありがとうございました。

ほたるの里づくり実行委員会では、今年初めて『ほたるの里の写真展』を行いました。写真展は、皆さまからほたるの里や新川にまつわる10点の写真と数点の作品の応募を頂き、10月6日から約1ヶ月間、八千代市内の3箇所を巡回しました。ご協力、誠にありがとうございました。

多くの方が会場を見に来られ、来場者による人気投票で、下記3点を表彰いたしました。

* 最多賞

「熊蜂の飛行(花はミソハギ)」 森田 朗

自然が好きで野草や野鳥、昆虫等を写しています。八千代市は開発が進み残された自然は非常に少なく写真を撮るのも苦労しています。しかしほたるの里づくり実行委員会や環境保全課の皆様の努力により、この里ではオミナエシ、ミソハギ、フシグロセンノウなどの野草が咲き多くの昆虫や野鳥が訪れ私達を楽しませてくれます。



* 人気賞

「ほたるの里夕暮れ」 川瀬 純一



.....

テーマをほたるの里の四季でと思っていたら、昨年末に雪が降り早速雪景色をと翌朝出かけて見ると<新川>越しに白雪の富士山がポッカー望めました。ラッキーなシャッターチャンスでした。

市内にはまだ自然も多く、この写真展を通じて多くの人に八千代の自然にもっと関心を深めてもらえればと思う次第でした。

.....

* 特別賞

「ようこそほたるの里へ！」 桑波田 和子

1月末、アオサギがトンボ池の木の上に止まっていた。後からダイサギがやってきて、アオサギの近くまで来ました。しばらくしてダイサギが飛んでいきました。とっても不思議な光景でした。「ほたるの里」はワンダーランドです！



私たちはほたるの里を応援しています！



株式会社オカムラホーム

株式会社ホリキリ



谷津ものがたり

広報部 桑波田 和子

むかしの花輪谷津

花輪谷津は、尾崎、花輪地区に広がる、細い谷津田です。尾崎に代々住んでいらっしゃる、高橋様に昔の花輪谷津のことをお聞きしました。

戦国時代に高木氏の居城(吉橋城)が、現在の貞福寺の辺りにあったと伝えられています。また、吉橋大師の第1番札所と、第88番札所 尾崎薬師堂がこの尾崎地区に現在も残っています。歴史の重さを感じる地域です。この集落に囲まれた花輪谷津の中を流れる花輪川は、人が跳んで渡れるくらいの川幅でした。谷津田の周りは林が多く、現在の緑が丘のあたりも林でした。花輪川の水源はこの林からの湧水で、水量が多くこの水で稲作が行われていました。川の水は綺麗で野菜や農作業道具もこの川で洗ったそうで、「エビで仕掛をするとウナギが取れ、ベタベタ(タナゴ)等、生き物も豊かな川だった」と懐かしそうに話されました。もちろんホタルもたくさん飛んでいました。そして、川の水を利用して、水車小屋がありここで精米していました。

ところが、緑が丘の住宅開発等により平成4年、花輪川の護岸工事が始まり、田んぼと同じ高さだった川も現在のように低くなり、川の位置も変わりました。川にかかる「尾崎橋」「中橋」「土橋」は地域住民の方から募集してつけられたとのこと。田んぼも圃場整備をして広い田んぼになりました。八千代市の水辺の自然環境調査によると、圃場整備の2年後頃からホタルの姿はなくなりました。

いまの花輪谷津

川幅が広がった花輪川の上流は、東葉高速鉄道の操車場近くの開渠から始まり、周りをフェンスで囲まれ、3面コンクリートの中を流れてきます。花輪橋からは約2m位の高さの矢板に囲まれ、田んぼの中を流れ桑納川へと流れる、全長約2kmの川です。土橋からは、上流から新川の米本団地までを眺めることができます。町から近い所ですが、まだ里山風景が残っています。農薬と化学肥料を従来の半分以下にするちばエコ農業でお米を作っている農家もあります。

花輪川は、普段水量が少ないですが、雨が降ればたちまち水量が増える都市型河川です。花輪川の水源は、家庭雑排水、雨水、牧場の処理水、工場からの排水などが主です。暗渠あたりの水量はとて少ないのですが、操車場の近くの斜面林、工場の斜面林、川の中からの湧水などが加わり水量は増えていきます。

花輪川から土橋までの間に川の中に降りられる階段が、4箇所あります。アシ、ガマ、マコモ、ミゾソバなどが生えていますが、主にアシが多いです。川の中には、アメリカザリガニ、スジエビ、トウヨシノボリ、ドジョウ、ミズカマキリ、ゲンゴロウの仲間、ヤゴ類、ハグロトンボなどが見られます。また、カワセミ、アオサギ、チュウサギ、カルガモ、ツグミ、セキレイなどいろいろな種類の鳥が飛んできます。

花輪川は、桑納川、新川、印旛沼に流れてやがて県民の飲み水になります。ここにホタルもメダカも棲める川にしようと、NPO法人八千代オイコスが長年活動をしてきました。そして、八千代市のアダプト制度のもと、河川の清掃管理を行っていますが、地域の方々と一緒に活動したいと願っています。夏休みには、水を大切にしたいと「川の学校」を開き、子どもたちの元気な声が花輪川に響きます。



(2005年川の学校より)

里のみどころ（1～3月のころ）

霜が降り、木も草も真っ白く静かな冬の朝、さくっさくっとして霜柱を踏む音が響きます。

周りの田んぼも白く、朝日を浴びてきらきら光ります。

富士見橋の向こうに、冠雪の富士山が見えます。

氷の張った湿地では、メダカやホタルの幼虫たちが、じっと動かず水がぬるむのを待っています。

2月の終わりにはニホンアカガエルが卵を産みに里にやってきます。

日当たりの良いところには、オオイヌノフグリ、ハコベ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、タネツケバナなどの花が咲き始めます。

厳しい冬からやがて芽吹きの中春に季節は移っていきます。

（くわはた）

ハコベ

タネツケバナ

オオイヌノフグリ

ヒメオドリコソウ

ホトケノザ

（もり）

ほたるの里の見学会

11月19日（土）に毎年恒例のほたるの里の見学会を開催しました。今年は、秋晴れの中、茨城県霞ヶ浦にある霞ヶ浦環境科学センターと水資源機構利根川下流総合管理所で行っているホタルの飼育小屋の見学に行ってきました。

環境科学センターでは、霞ヶ浦の歴史から現況、市民団体への支援などのセンターの事業について、お話をして頂きました。その後、水資源機構利根川下流総合管理所・玉造管理所では、たくさんのホタルが見られるような環境に改善したいと、「霞ヶ浦ふれあいランド内ホタル水路棟」で、ゲンジボタルの人工飼育を行っていました。手作りの産卵箱や幼虫の上陸装置、ホタルのエサとなるカワニナの飼育箱などを見せて頂き、ほたるの里のとてもよい参考になりました。そして、偶然にも幼虫の脱皮を見られたのは感激でした！

車中では、水の勉強をし、俳句ゲームでは、『筑波山 芋食べながら 楽しけり』という俳句が一番人気を得ました。



ゲンジボタルの上陸装置にびっくり！！

里の訪問者



‘05年の10月・11月には多くの方が、ほたるの里の見学に来られました。

☆小・中学生の総合学習

・萱田小学校『自然の家宿泊学習』

10月31日と11月1日には、萱田小学校の4年生が、ほたるの里で里の仕組みや実行委員会の活動状況について学び、総勢215名もの参加となりました。

・村上東中学校『総合学習』

11月10日、生徒さんが、20の質問を持って「ほたるの里」に取材に来ました。

質問の内容は、ホタルの生態、里の成り立ち、実行委員会の活動、やりがいやボランティアの苦労についてでした。里の散策をしていたら、少し赤くなりかけたニホンアカガエルに出会い感激していました。「ホタルが飛ぶ季節にまた来ます」と帰って行きました。

☆印旛沼わいわい会議 in やちよ

11月5日に印旛沼の水質浄化のために、多くの方の意見を取り入れようと開催された『印旛沼わいわい会議 in やちよ』で、市民と行政がパートナーシップを組んでいる先進地として、ほたるの里を見学しました。



☆ザリガニ釣り大会の報告☆

‘05年最後のほたるの里環境整備とザリガニ釣り大会は11月26日、晴天、小春日和のなかで行われました。

小さな子供さんからご家族、里整備のメイトの方を含めて、約70人の参加で賑わいました。子供さんのなかには勢いあまって池に落ちた人もいてハラハラしましたが、みんな元気に終了しました。

収獲は、ザリガニ約50匹、冬眠中のガマガエル、アマガエル、ヨコエビ、メダカも数匹。ザリガニが天敵のホタルの幼虫も少しは安心できたでしょう。

里の整備も、‘05年は雨がが多く整備できない日もあったので、雑草が猛烈な繁茂ぶり、メイトの方には大格闘していただき、あらかた刈ることができました。お疲れさまでした。今年の3月までほたるの里の整備はお休みです。



1、2、3月のスケジュール

里の環境整備

日時：3月4日（土） 午前10時～正午

集合場所：ほたるの里

注意：各自、鎌や軍手の用意をお願いします。

【ほたるの里の連絡先】

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局 八千代市役所環境保全課

Tel 047-483-1151 Fax 047-484-8824 E-mail kankyout@city.yachiyo.chiba.jp

【編集】

広報部会 事務局